

【ほどよい距離感】



地域の方々が様々な場面で学校のためにと、様々なお手伝いをしてくださっています。

今日、今シーズンはじめてと云っていいほどの雪が降りました。下校時に合わせて至る所で歩道等の雪かきをしていただきました。地域の子どもに対する、学校に対する愛を、またまた、ひしひしと感じました。感謝であります本当にありがとうございました。

コロナ禍で、なかなか学校の中でのボランティアは難しいのですが、この冬の寒い中、学区内の至る所に子どもたちを見守ってくださっているボランティアさんが、本校にもたくさんいらっしゃいます。本当に毎日、毎日、雨にも負けず、風にも負けず、一緒に歩いてくださったり、子どもたちがみんな登校するまで立ってくださったりしています。

そんな方々の中で「子どもとの距離感が絶妙だなあ」と思われるおばあさんがいらっしゃいます。

その方は〇〇〇から、自転車を引ながら子どもたちと毎日歩いてくださっているのですが、時には子どもたちと話しながら、時には少し離れて、時にはうーんと後ろを・・・というように、たぶんその日の子どもたちの気持ちを汲んでの距離感かと思うのですが、その距離感がなんとも絶妙で、見かけるたびに「うまいなあ」と思わずうなってしまうのでした。

そして私は、その絶妙な距離を眺めながら、「子どもの心を慮ってくださってありがとうございます」と心で思いながら、「いつも一緒に笑顔で来られたらいいのになあ」と、理想の姿も思い描いてしまうのでありました（よくばりですかねえ）。

【1つの取組】

この頃、1つの取組をしています。それは、ある場所のお掃除ロッカーの整頓についての取組です。今までそこを使っていたグループに、おそうじ道具の片付け方を「こうしてくれると嬉しいなあ」と伝えたら、その後はずーっときれいなロッカーが保たれていたのです、思わず写真のような掲示で感謝を伝えました。

そして、そうじ分担が代わって次のグループとなりました。貼り紙はもちろん、外すことなくそのままにしておきました（にわかに、整頓が継続されることを願いつつ）



するとどうでしょう。 そうじロッカーはこのような状態でなかなか整頓された状態とは言い難い日々が何日も続きました。たまりかねて、「そうじロッカーきれいをお願いね」と声をかけたこともありましたが、もちろん、素直で良い子たちなので、その日はちゃんときれいにしてくれるのですが、いかんせん、長続きしません。

「どうしたものか？」と思案しつつ、毎日ロッカーを覗いていると、なんときれいになっている日があったのでした。「これはチャンス」と思い、こんな掲示をしました。**すると、どうなったと思います？**

そうです！ロッカーの整頓が継続されるようになったのでした。

前回の貼りっぱなしの掲示物は、自分たちへ向けられた言葉ではないので、自分たちの心には響きません。しかし、次の貼り紙は自分たちの行為への評価なのです。自分たちのがんばりを評価してもらえたことへの満足感がロッカー整頓継続へのモチベーションとなっているのだと思います。

しかし、そうなると、やはり子どもの心（目に見えないもの）を育てるとは、手間暇かかるものだと改めて気づかされるのでありました。「これがだめなら、これでどうだ！！」まさに、根気比べであります。

